

建設環境委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和2年1月20日（月）から
令和2年1月21日（火）まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 愛知県半田市 「マイレポはんだ」について
 - (2) 愛知県岡崎市 生物多様性おかざき戦略について

- 3 参加者 委員長 齋藤 康夫
副委員長 吹春 やすたか
岸田 正義
水谷 たかこ
小林 正樹
遠藤 百合子
篠原 ひろし
板倉 真也
同行 若藤 実（都市整備部長）
平野 純也（環境政策課長）
日野 靖久（道路管理課長）
随行 小松 尚寛（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

視 察 概 要	
【視察日程】 令和2年1月20日	【視察先】 愛知県半田市
【視察項目】 「マイレポはんだ」について	
【視察目的】 「マイレポはんだ」は市民の目線だからこそ分かる地域の問題点を市民の協力により解決できる取組であり、小金井市の行政運営に取り入れることで、市民サービスの向上が可能な事業であると考えられる。取組の経緯、従来の問題点、期待される効果、事業の位置付け、運用体制、災害時の効果等、小金井市での運用の可能性の検証を行うことを目的とした。	
【事業の概要】 「マイレポはんだ」とは、スマートフォンを利用して、道路の陥没や施設の破損など、身近な問題を手軽に解決する半田市の先進的な取組の名称である。半田市では、スマートフォンの無料アプリ (FixMyStreetJapan) を利用して、地域の課題や問題を解決する制度に取り組んでいる。 市民が地域の問題点を発見した場合、アプリケーションをダウンロードしたスマートフォンで写真を撮影し、ワンクリックで行政に投稿することができる。行政に写真と地図が自動的に届くことで、現場確認をしなくても対処できるケースもあり、行政の負担も減る。平成26年(2014年)10月からスタートした「マイレポはんだ」は平成31年(2019年)4月時点で累計271名の投稿があった。	
【所感、課題等】 委員1 担当者の提案があつて以降、検討から導入までの決定プロセスが非常にスムーズな点が素晴らしい。また、小金井市で言う都市整備部のサービスではなく、あくまでも市民協働の観点からのもので、既存のサービスに対しては補完的な位置付けに過ぎず、その先の協働に向けた仕掛けづくりである点は驚かされた。カスタマイズをしなければ、導入費用も低いことから、目的が明確になるのであれば、本市でも積極的に検討をすべきだと考える。 委員2 スマートフォンを利用した市民協働での行政サービスの新たな取組である。特筆すべきは導入までのスピード感である。平成25年4月にテレビ番組を観て気付き、7、8月で第一段階の実証実験を行い、平成26年1月から3月までに第二段階の実証実験を行い、10月に運用を開始している。きっかけはテレビ、そこから僅か1年半で本格運用に至っている。「やってみてダメならやめればいい」との考えが庁内にあるとのことであった。 委員3 導入したことで「初動が早くなった」との評価が紹介された。電話連絡の場合、まず職員が状況確認のために現場へ赴き、一度戻ってから対応に出掛けるという2往復が必要だったが、状況が分かった上で現場に行くので、1往復で済むようになった。これは大きな	



メリットである。スマートフォンが使える年齢層が限られている課題はあるが、自分のまちを自分で良くしていくことができる仕組みで、市民が手軽に参画できるところが良い。

委員 4

人口は小金井市と概ね同数の12万人だが、市域は4倍強ある。市職員の巡回調査だけでは把握しきれない各種問題点、問題個所があったことが理解できる。普及しているスマートフォンの機能を活用したアプリを導入して問題点を把握するのは時間的に、また場所の確認に効果的であると評価する。道路に関する投稿、通報が特に多いが、道路の損傷が小さいうちに連絡が入れば市職員で対応し、補修費も軽微で済む。

委員 5

この取組を導入するための初期費用は特になく、スマートフォンのGPSと地図を活用する民間の有料アプリを使用しており、その金額は月額37,500円だという。有効な取組と考える。スマートフォンは今日幅広く普及しており、修繕・改善等を求める市民の声に対応していく1つのツールとして活用していけるものとなる。小金井市でも導入に向けた検討を行うべきと考える。

委員 6

「マイレポはんだ」は単に地域の問題点を行政に知らせるということだけではなく、市民と行政が手を取り合って、住みよいまちを作り上げるという基盤整備の可能性があると思える。道路の陥没や街灯の玉切れだけではなく、ソフトの面での市政の問題点や課題の提案ツールとしても活用できると思える。費用も少額で実現できることもあり、すぐにも小金井市で導入すべきである。

委員 7

全国共通アプリを活用して、地域の課題や問題を市民と行政が共有し、共に解決に向かう基盤を作り、住民満足度の向上を図る狙いから、市民協働課が担当している。最大の効果は、電話等では分かりづらい場所と状況を把握することで、行政の初動が効率化されたところにあるが、市の登録人数や独自のデータ抽出ができず、認知度や活用度が図れない等の課題も見える一方で、災害用ページは瞬時に状況を共有できるので有用と考える。

委員 8

初期費用は約50万円で、月額37,500円、千葉市の前例に倣い半年の準備期間を経て実施している。職員個人のスマートフォンで、その場で解決できることも多く、課題や問題の解決がスムーズである。200件以上の投稿があり、新しい層の掘り起こしになっている。高校生にもチラシにより登録を促し、若い層への利用拡大を試みている。問題解決への努力をしている姿は好ましく、ぜひ小金井市でも実施をしてはどうかと思う。

視 察 概 要

【視察日程】 令和2年1月21日

【視察先】 愛知県岡崎市

【視察項目】 生物多様性おかげき戦略について

【視察目的】

「生物多様性」を重視することは、小金井市の長期基本構想の理念にかなったものである。岡崎市では「生物多様性おかげき戦略」を策定し、環境基本計画、土地利用計画、都市計画、緑の基本計画、森林整備ビジョン等の計画と連携して目的の達成を目指している。小金井市と岡崎市では、人口、面積、産業構造等相違する部分はあるが、その先進的な取組を視察することにより小金井市に取り入れることを検証することを目的とした。

【事業の概要】

岡崎市は、「生物多様性国家戦略2010」、「あいち自然環境保全戦略」を基本とし、生物多様性の現状を踏まえて「生物多様性おかげき戦略」を策定した。岡崎市の豊かな多様性として、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の観点から、市の現状と課題を明確にしている。その上で、行動戦略、具体的施策として2050年までに目指すとして、野生動植物の保護及び自然環境の保全、人と自然環境の関係の再構築、生態系ネットワークの形成、生物多様性の持続的な利用の推進等の8項目において具体的施策を位置付けている。



【所感、課題等】

委員1

387.2キロ平方メートルと小金市と比べると34倍以上の市域面積だが、とても大切な観点であることは言うまでもない。岡崎市は幼児から大人まで、各世代の興味がない人、これから学びたい人、真剣に取り組んでいる人と、それぞれにあった「環境学習プログラム」という積極的な取組がある。視察内容を参考に、形態はともかく自然豊かな本市にとって、SDGsの観点からも一定の取組を検討していく責任があると考えます。

委員2

重厚な戦略が特色である。平成17年に環境基本条例を制定し、2050年までの中長期目標を設定している。現状把握、課題設定により目標は数値化され、進捗は具体的に表現されている。将来を見据えた環境学習も、未来環境創造戦士エコマンダーを結成し、対応している。仕事に漏れや抜けがなく、事前質問にも十分な内容の文書が作成されていた。この仕事ぶりは地域性なのだろうか。他に要因があるならそれは何なのか気になった。

委員3

小金井市とは自然環境が大きく異なることから、導入が難しい部分も多かった。しかしながら、おかげき「戦略」と名付けた壮大な構想であり、それを実現するために教育に力を入れていることが非常に参考になった。一定の専門性のある職員が幼稚園・保育園児から一般の市民にまで出張講座などを行い、市民の意識付けをしている。ビジョンを示し、教育に力を入れるという点は、小金井市でも取り組むべき課題であると感じた。

委員4

面積は387.2平方キロメートル、可住地面積が155.4平方キロメートルで市域

の60%が山地や森林・湿地が広がり、市域内で広大な自然環境に触れられる岡崎市である。この豊かな自然環境により、多種の草木、鳥獣、昆虫等が日常的に身近にあることによる市民が受ける恩恵、癒し効果は市のアイデンティティとして意識している背景を理解できる。ふるさとへの愛着や誇りを醸成する良い参考事例と言える。

委員5

岡崎市のこの取組を視察するに至った背景には、小金井市の貴重な緑と水に影響を及ぼす都市計画道路の優先整備路線への事業着手の具体化がある。現状の小金井市の行政は、独自に希少野生動植物種の調査を行うまでには至らず、優先整備路線の建設によって小金井市の自然の生態系にどのような影響があるかの実態把握はできない状況となっている。今回の視察の成果を、小金井市で具体化させていきたいと考える。

委員6

戦略策定の背景として、「生きていく上で必要な大気や水、食料を始め衣類や医薬品などたくさんの生物多様性からの恵みを受けている。近年開発の影響や、里山の利用が少なくなったことによる環境の変化、外来生物、科学物質など人間活動による影響等により、生物の多様性の危機が進行している。」としている。これは日本全国の自治体の課題である。小金井市もこの現状を踏まえた取組が必要である。

委員7

額田町との合併により山林が増えたことを契機に生物多様性戦略を市民や専門家を交えて2年間議論して策定し、具体的な数字目標も設定している。エコマンダラーなる戦隊キャラに職員が扮し、保育園や幼稚園などで環境の重要性を植え付け、学校の協力の下、小中高と各学齢期に応じた啓発、まちと森の交流拠点づくり、環境団体の育成や支援を積極的に行うなど、啓発と市民協働に力を入れ推進している点は特に参考にすべきと考える。

委員8

計画策定時には庁内検討会議を2年にわたり実施し、多種の市民団体との協働で動き始めている。注目すべきは子ども達への環境教育で、平成25年に策定した環境教育推進計画にのっとり多様なプログラムがあり、職員の出前講座として、小中学生に様々な分野に合わせた環境教室を行っている。自然共生課を作り、職員体制の充実により年間100回ほどの講座を実施しているとのこと。小金井市でも環境教育の充実を図っていきたい。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 382,840円

〈内 訳〉	委員旅費	@42,760円	×8人	=	342,080円
	1人当たり旅費				
			交通費		22,160円
			宿泊費		15,000円
			日 当		5,600円
	職員旅費	@40,760円	×1人	=	40,760円
	1人当たり旅費				
			交通費		22,160円
			宿泊費		15,000円
			日 当		3,600円

2 執 行 額 382,840円

〈内 訳〉	交通費	199,440円
	宿泊費	135,000円
	日 当	48,400円

3 差 引 残 0円